

インドネシア共和国東ジャワ州シドアルジョ県 における熱泥流事故における被害者住民を 主体とした健康調査及び大気調査の実施

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

銀板の設置	70基
ステーキホルダー会議の参加者	54人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	90%



住民と自身の手で銀板プレートを作成する

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

被災者間で補償の有無や種別で感情的な対立があり、さらに出身の村落間で利害の相違があったこと。このため、横断的な組織を構成することが困難であったこと。

■ 工夫した点

住民とコミュニケーションを取りながら、極力彼らの意見を活動に取り入れた。また、得られたデータを常に住民に還元することで、健康問題という共通の利害を構築できた。

課題

インドネシア東ジャワで2006年5月に噴出し始めた熱泥流は今日も続いているが、環境汚染や住民の健康被害の実態はほとんど明らかになっていない。

目標

住民主体の大気モニタリングや健康被害調査を通じ、環境汚染の実態を明らかにする。また村落を横断した被害者団体を組織し、行政や事業者と救済を目指して交渉を開始する。

活動内容と成果

- 大気汚染の実態を把握するため、硫化水素に反応する銀板を70基、風向・風速計を5基設置し、乾季から雨季にかけて3か月に渡り色の変化や臭い、風向きなどを記録した
- 簡便な健康調査票を配布し、家族や近所で健康を害した人々の情報を収集した
- 住民主体の簡易型環境モニタリングの手法や3年間の活動の成果をまとめたインドネシア語のガイドブックやパンフレットを発刊し行政担当者、メディア、住民団体などへ無料配布した
- ステーキホルダー会議を開催し行政や専門家、養殖業者などとの連携を図った



地元で自生する竹を用いて風向計を作成する

全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動を通じ住民が主体的に環境モニタリングに取り組めるようになったことが最大の成果である。環境汚染や健康被害の情報を住民同士で共有することで、補償の有無や村落を超えて住民同士が連帯できるようになった。これらのデータをもとに行政と定期的に会合を持つようになり、健康被害救済の可能性が見出せるようになった。活動の成果をインドネシア語のガイドブックにまとめたことで、他地域で応用できるようになった。



ステーキホルダー会議で結果を説明する住民

| 活動地域 | インドネシア

〒110-0005 東京都台東区上野5-3-4
クリエイティブOne秋葉原6F
<https://www.jca.apc.org/~janni/>



今後の展望

今後はカウンターパートのPoskoKKLuLaが主体的に活動を進める。住民の関心に沿って大気汚染に加え井戸水の水質モニタリングや土壌汚染のモニタリングに活動を拡大する。行政と定期的に会合を続け、貧困者向け健康保険を被害地域住民に拡大できるように働きかける。仕事を失った周辺住民を組織化し、協同組合を立ち上げる。協同組合を中心に養殖や花卉栽培のトレーニングを行う。